

〈2022 年度〉

## 生命保険講座「生命保険計理」

### 試 験 問 題【フォーム A】

● 注 意 事 項

---

1. 試験時間は 80 分です。
2. 試験問題は、全部で 50 問あります。《100 点満点》
  - 問題 1 から 20 は、語群の中から適切なものを選ぶ問題《各 1 点：20 点満点》
  - 問題 21 から 25 は、正しいものを 1 つ選ぶ問題《各 4 点：20 点満点》
  - 問題 26 から 30 は、誤っているものを 1 つ選ぶ問題《各 4 点：20 点満点》
  - 問題 31 から 40 は、正誤を選ぶ問題《各 1 点：10 点満点》
  - 問題 41 から 50 は、適切な組み合わせを選ぶ問題《各 3 点：30 点満点》

一般社団法人 生 命 保 険 協 会

<付表 1> 生保標準生命表 2018（死亡保険用）（男）

年齢	生存数	死亡数	死亡率		年齢	生存数	死亡数	死亡率
39	98,159	107	0.00109		60	92,339	603	0.00653
40	98,052	116	0.00118		61	91,736	657	0.00716
41	97,936	126	0.00129		62	91,079	715	0.00785
42	97,810	137	0.00140		63	90,364	775	0.00858
43	97,673	147	0.00151		64	89,589	838	0.00935
44	97,525	159	0.00163		65	88,751	901	0.01015
45	97,366	172	0.00177		66	87,850	966	0.01100
46	97,194	189	0.00194		67	86,884	1,034	0.01190
47	97,005	208	0.00214		68	85,850	1,109	0.01292
48	96,798	228	0.00236		69	84,741	1,193	0.01408
49	96,569	250	0.00259		↓	↓	↓	↓
50	96,319	275	0.00285		100	1,283.7	511.94	0.39881
51	96,045	299	0.00311		101	771.73	333.46	0.43210
52	95,746	323	0.00337		102	438.26	204.61	0.46686
53	95,423	347	0.00364		103	233.66	117.51	0.50292
54	95,076	372	0.00391		104	116.15	62.726	0.54006
55	94,704	400	0.00422		105	53.420	30.877	0.57800
56	94,305	432	0.00458		106	22.543	13.8961	0.61642
57	93,873	469	0.00500		107	8.6471	5.6633	0.65494
58	93,403	510	0.00546		108	2.9838	2.0682	0.69314
59	92,893	555	0.00597		109	0.9156	0.9156	1.00000

<付表 2> 複利表（複利終価表） 年 1.0% 複利現価表 年 1.0%

	期始払終価	期央払終価	期末払終価	期始払現価	期央払現価	期末払現価
1年	1.010000	1.004988	1.000000	1.000000	0.995037	0.990099
2	1.020100	1.015037	1.010000	0.990099	0.985185	0.980296
3	1.030301	1.025188	1.020100	0.980296	0.975431	0.970590
4	1.040604	1.035440	1.030301	0.970590	0.965773	0.960980
5	1.051010	1.045794	1.040604	0.960980	0.956211	0.951466
6	1.061520	1.056252	1.051010	0.951466	0.946744	0.942045
7	1.072135	1.066815	1.061520	0.942045	0.937370	0.932718
8	1.082857	1.077483	1.072135	0.932718	0.928089	0.923483
9	1.093685	1.088258	1.082857	0.923483	0.918900	0.914340
10	1.104622	1.099140	1.093685	0.914340	0.909802	0.905287

\*元金 1 に対して

\*毎年の支払金額 1 に対して

**〔生存率・生存数・平均余命・保険料計算〕**

文中の空欄〔 1 〕～〔 5 〕に入る最も適切な数値を選んでください。

(1)＜付表 1＞の生保標準生命表 2018（死亡保険用）（男）を用いて計算すると、

①60 歳の男子が 65 歳まで生存する確率は、〔 1 〕である。（解答は小数第 6 位四捨五入）

②40 歳の男子が 10 万人いる。10 年後に生存している人数は、〔 2 〕人である。（解答は小数第 1 位四捨五入）

③104 歳の男子の平均余命は、〔 3 〕年である。（計算過程および解答は小数第 3 位四捨五入）

(2)＜付表 1＞の生保標準生命表 2018（死亡保険用）（男）の死亡数、＜付表 2＞の複利表・複利現価表（年 1.0％）を用いて、保険金 300 万円、男子 55 歳加入の 1 年定期保険の純保険料を計算すると、

①死亡者全員分に対して支払われる保険金総額の現価は、〔 4 〕千円である。（解答は千円未満四捨五入）

②純保険料は、〔 5 〕円である。（解答は 10 円未満四捨五入）

**語群**

ア. 0.96114

イ. 0.96746

ウ. 1.26

エ. 2.09

オ. 11,730

カ. 12,610

キ. 98,069

ク. 98,233

ケ. 1,110,461

コ. 1,194,044

**〔複利運用〕**

文中の空欄〔 6 〕～〔 10 〕に入る最も適切な数値を選んでください。

(1) 元金 200 万円とした場合、

① 利率 0.2%、1 カ月複利で運用した場合の半年後の利息は、〔 6 〕円である。(解答は円未満四捨五入)

② 年利率 1.2%、半年複利で運用した場合の 5 年後の元利合計額は、〔 7 〕円である。(解答は円未満四捨五入)

(2) 名称利率 1.5%、転化回数 4 回により複利計算した場合、元金 1 の実利率は、〔 8 〕%である。(解答は小数第 3 位四捨五入)

(3) 年利率 1.3%の複利で 5 年間運用した場合の年平均利回りは、〔 9 〕%である。(解答は小数第 3 位四捨五入)

(4) 年利率 1.0%の複利で 5 年後(期末)に 200 万円を得ようとする場合、現在必要な資金は、〔 10 〕円である。(解答は円未満四捨五入)

**語群**

ア. 1.06

イ. 1.33

ウ. 1.51

エ. 2.02

オ. 24,120

カ. 28,168

キ. 1,884,091

ク. 1,902,931

ケ. 2,020,080

コ. 2,123,292

### 【剰余金の発生源－①】

文中の空欄【 11 】～【 15 】に入る最も適切なものを選んでください。

生命保険会社の剰余金を発生源（利源）別に大別すると、a）死差益、b）利差益、c）費差益、d）その他の損益の4つに分けられる。

a）死差益

実際死亡率が予定死亡率よりも低い場合に生ずる剰余（利益）であり、次の式で表すことができる。

$$\begin{aligned}\text{死差益} &= (\text{予定死亡率} - \text{実際死亡率}) \times \text{【 11 】 額} \\ &= \text{【 12 】 の総額} - \text{実際死亡の【 11 】 総額}\end{aligned}$$

経過年数が短い契約については、通常、危険選択の効果があり、死差益は【 13 】なる。

b）利差益

資産運用による実際利回りが予定利率よりも高い場合に生ずる剰余（利益）であり、次の式で表すことができる。

$$\begin{aligned}\text{利差益} &= (\text{実際利回り} - \text{予定利率}) \times \text{【 14 】 の総額} \\ &= (\text{資産運用による実際の【 15 】} - (\text{予定利率により保険料} \\ &\quad \text{積立金に繰り入れられるべき予定利息}))\end{aligned}$$

利差益は【 14 】に比例するので、貯蓄性の強い保険、養老保険などについては、契約初期は少なく、経過年数が長くなるほど多くなる。

### 語群

ア. 死亡保険金

イ. 危険保険料

ウ. 支払備金

エ. 少なく

オ. 多く

カ. 営業保険料

キ. 危険保険金

ク. その他運用収益

ケ. 責任準備金

コ. 利息および配当金等収入

## 【剰余金の発生源－②】

文中の空欄【 16 】～【 20 】に入る最も適切なものを選んでください。

### c) 費差益

実際の事業費が予定事業費よりも少ない場合に生ずる剰余（利益）であり、次の式で表すことができる。

費差益＝【 16 】の総額－実際事業費の総額

### d) その他の損益

責任準備金関係損益、【 17 】損益、その他の損益に区分される。

責任準備金関係損益は、【 18 】の積増損、および契約者価額としての責任準備金より実際の責任準備金がどれだけ多く積み立てられているか、その積増負担損、さらに【 19 】から構成される。

【 17 】損益は、有価証券および動産・不動産の売却益と評価益の合計額から、それら財産の売却損と評価損の合計額を差し引き、さらに保険業法第 115 条によって【 17 】準備金として積み立てる額を除いたものである。

その他の損益は、上記の損益に分類されない損益項目であり、例えば【 20 】などが対応する。

## 語群

ア. 株式配当

イ. 付加保険料

ウ. 転換・中途増額益

エ. 危険準備金

オ. 価格変動

カ. 法人税および住民税額

キ. 未経過保険料

ク. 保険契約

ケ. 解約・失効益

コ. 契約者配当準備金

＜ここからは正しいものを選ぶ問題です。＞

〔 21 〕 死亡保険金の現価について

男子 50 歳加入、保険期間 5 年、保険金 300 万円の養老保険の、5 年間に支払う死亡保険金の現価について、正しい数値を 1 つ選んでください（計算過程および計算結果は千円未満四捨五入）。計算にあたっては、＜付表 1＞の生保標準生命表 2018（死亡保険用）（男）の死亡数、＜付表 2＞の複利表・複利現価表（年 1.0%）を使用してください。

ア. 4,722,311 千円

イ. 4,745,864 千円

ウ. 5,037,498 千円

〔 22 〕 満期保険金の現価について

男子 50 歳加入、保険期間 5 年、保険金 300 万円の養老保険の、5 年間に支払う満期保険金の現価について、正しい数値を 1 つ選んでください（計算過程および計算結果は千円未満四捨五入）。計算にあたっては、＜付表 1＞の生保標準生命表 2018（死亡保険用）（男）の生存数、＜付表 2＞の複利表・複利現価表（年 1.0%）を使用してください。

ア. 269,184,003 千円

イ. 270,322,908 千円

ウ. 271,671,020 千円

〔 23 〕 予定事業費の現価について

男子 50 歳加入、保険期間 5 年、保険金 300 万円の養老保険の予定事業費の現価について、正しい数値を 1 つ選んでください（計算過程および計算結果は千円未満四捨五入）。計算にあたっては、＜付表 1＞の生保標準生命表 2018（死亡保険用）（男）の生存数、＜付表 2＞の複利表・複利現価表（年 1.0%）を使用してください。なお、保険料払込免除のための保険料は考慮しないものとし、予定事業費率は保険金比例の予定新契約費（保険金千円につき 25 円）のみとします。

ア. 7,132,054 千円

イ. 7,152,401 千円

ウ. 7,223,925 千円

〔 24 〕 養老保険の年払保険料について

男子 50 歳加入、保険期間 5 年、保険金 300 万円の養老保険の年払保険料について、正しい数値を 1 つ選んでください（計算過程の収入は小数第 1 位四捨五入、支出は千円未満四捨五入、計算結果は 10 円未満四捨五入）。計算にあたっては、＜付表 1＞の生保標準生命表 2018（死亡保険用）（男）の生存数・死亡数、＜付表 2＞の複利表・複利現価表（年 1.0%）を使用してください。なお、保険料払込免除のための保険料は考慮しないものとし、予定事業費率は保険金比例の予定新契約費（保険金千円につき 25 円）のみとします。

ア. 599,150 円

イ. 601,530 円

ウ. 605,070 円



**〔 25 〕 契約者配当金の分配・支払方法について**

次の文章のうち、正しいものを1つ選んでください。

**ア.** 保険を買い増す方法

配当金を年払保険料として契約応当日に保険を買増し（保険金を増額）する。

**イ.** 保険料と相殺する方法

契約応当日に始まる保険年度について、配当金を保険料払込回数にかかわらず、その年度の保険料にまとめて充当、相殺する。

**ウ.** 現金で支払う方法

月払契約で契約応当日の第1月目から第6月目までの保険料が払い込まれたときに、第7月目に配当金を現金で一括支払いする生命保険会社もある。

<ここからは誤っているものを選ぶ問題です。>

**〔 26 〕 死亡表の種類について**

次の文章のうち、誤っているものを1つ選んでください。

**ア.** 国内では、経験表として「日本全会社生命表（第1回全会社表）」が明治後半に作成されており、これが初の完備した経験表であった。

**イ.** 完全生命表は、正確な人口統計に基づき精密に算定された各年齢ごとの死亡率を表示したものであり、国内では5年ごとの国勢調査による男女別、年齢別人口とその時期の人口動態統計による男女別、年齢別死亡数を材料にして精緻な統計処理によって作成される。

**ウ.** 2018年度（平成30年度）以降の新契約に適用される生保標準生命表として、「生保標準生命表2018（死亡保険用）」と「第三分野標準生命表2018」が作成されているが、年金開始後契約に適用する標準生命表については、「生保標準生命表2007（年金開始後用）」を引き続き適用することとなっている。

## 〔 27 〕 責任準備金の積立に関する法的規制について

次の文章のうち、誤っているものを1つ選んでください。

**ア.** 責任準備金は生命保険会社が契約者に約した債務、すなわち将来の保険金や年金の支払いを履行するうえで最も重要な勘定科目であり、生命保険会社の負債の大部分を占めている。

**イ.** 標準責任準備金の概念は、1996 年（平成 8 年）4 月の保険業法改正ではじめて取り入れられたものであるが、それ以前から生命保険会社は保険料計算に用いた計算基礎を用いて責任準備金を積み立てており、実質的に標準責任準備金の概念に沿った積み立てを行っていた。

**ウ.** 決算時の責任準備金については、決算時点で有効である契約のうち決算時点以前に保険料が収入されておらず、決算時から猶予期間末までの期間に保険料の収入が見込まれない契約（例えば 3 月分の保険料が未収で 4 月になっても払い込まれる見込みのない契約）については、当該期間に対する危険保険料相当額を加えた額とすると保険業法施行規則に定められている。

## 〔 28 〕 契約変更について

次の文章のうち、誤っているものを1つ選んでください。

**ア.** 払済保険の保険金（払済保険金）は、変更時の元契約の残存保険期間を保険期間とし、そのときの被保険者の到達年齢を加入年齢とする養老保険（または終身保険等）の一時払保険料（ただし、新契約費は組み込まない）に解約返戻金を振り替えて新しく計算した保険金である。

**イ.** 延長保険は、保険料払込期間中に保険料の払い込みが困難となった場合、保険金額は元契約のままで（契約上の貸付金がある場合には、その元利金を差し引いた金額を新たな保険金額とする場合もある）、そのときの解約返戻金（契約上の貸付金がある場合には、その元利金を差し引いた残額）を、定期保険の一時払保険料（新契約費は組み込まない）に充当して、死亡保障の存続を図るものである。

**ウ.** 延長保険は、満期時まで契約が続いてなお解約返戻金（保険料積立金）の残額があったとしても、満期時に残額の払い戻しはない。

### 〔 29 〕 契約者配当の意義と割当について

次の文章のうち、誤っているものを1つ選んでください。

**ア.** 契約者配当金は、予定の保険費用（営業保険料）と実際に要した保険費用（実質保険料）との差額を調整するために、発生した剰余金を一定の基準で各契約に割り当てて分配するもので、過払いの保険料の割戻しに相当する性格をもつ。

**イ.** 配当金の支払いを行わない無配当保険や5年ごと利差配当付保険では、保険料が通常の有配当保険より高くなるのが一般的である。

**ウ.** 契約者配当の割当方法が具備すべき主な条件には、①公平性、②弾力性、③実用性、④大衆性などがあり、これらのうち公平性と実用性の有無が基本的なものといえるが、互いに矛盾し合う側面もあり、その調和を実務面で考慮しなければならない。

### 〔 30 〕 変額保険の仕組みについて

次の文章のうち、誤っているものを1つ選んでください。

**ア.** 特約保険料、前納保険料、体況による特別条件付契約の割増保険料は一般勘定で管理される。

**イ.** 特別勘定に入った貯蓄保険料部分は積立金として運用され、積立金は毎日の運用実績（評価損益を含む総合収益）によって計算される特別勘定指数（インデックス）またはユニット価格の変化に応じて毎日変動する。

**ウ.** 保険金は契約当初の基本保険金額を基準として積立金の変動に応じて毎日変動する。

<ここからは正誤を選ぶ問題です。>

### 31【死亡率】

次の文章について、正しい場合には「正」、誤っている場合には「誤」を選んでください。

実際の人口統計に基づく死亡率を粗死亡率と呼ぶのに対し、補整によって求められた死亡率を補整後死亡率と呼んで区別している。

正

誤

### 32【生命保険契約と年齢】

次の文章について、正しい場合には「正」、誤っている場合には「誤」を選んでください。

生命保険会社では、満  $x$  歳を中心に前後 6 カ月の被保険者に対して  $x$  歳の保険料率を適用している（平均すればちょうど  $x$  歳になる）、いわば四捨五入方式である「保険年齢方式」を採用している会社と、通常の年齢の数え方と同じで、わかりやすい切捨方式（端数月はすべて切り捨てる）である「満年齢方式」を採用している会社がある。

正

誤

### 33【予定利率】

次の文章について、正しい場合には「正」、誤っている場合には「誤」を選んでください。

以前は、長期の契約の予定利率を短期の契約よりも低めの、保守的な水準に設定する生命保険会社もあったが、現在では多くの生命保険会社で保険期間によらず商品の特性に応じて予定利率を定めている。

正

誤

### 34【計算基礎の変化と純保険料の変化】

次の文章について、正しい場合には「正」、誤っている場合には「誤」を選んでください。

予定死亡率を低く、予定利率を高くすると、定期保険と養老保険の純保険料は高くなる。

正

誤

### 35【付加保険料】

次の文章について、正しい場合には「正」、誤っている場合には「誤」を選んでください。

付加保険料の計算に使用する予定事業費率の決め方としては、予定事業費率を保険金に比例させる方法と予定事業費率を営業保険料（または純保険料）に比例させる方法を組み合わせる方式が一般的である。すなわち、事業費（経費）の内容、支出形態を吟味して（新契約費、維持費、集金費の項目別に）、保険金と保険料に比例させる方式を採用している。

正

誤

### 36【分割払営業保険料】

次の文章について、正しい場合には「正」、誤っている場合には「誤」を選んでください。

1年分を何回かに分けて払い込む分割払営業保険料の年間払込額は、年間の予定利息分や事業費などの違いにより、年払の営業保険料額を上回る。

正

誤

### 37【責任準備金積立根拠】

次の文章について、正しい場合には「正」、誤っている場合には「誤」を選んでください。

保険料が自然保険料方式で計算されている場合、平準保険料方式と同様、毎保険年度末に将来の保険金支払いに備えて責任準備金を積み立てる必要はない。

正

誤

### 38【決算による剰余金算定】

次の文章について、正しい場合には「正」、誤っている場合には「誤」を選んでください。

生命保険会社（相互会社）では、4月1日から翌年3月31日までを1事業年度として決算を行っている。生命保険会社の決算による剰余金の大部分は、保険料の計算基礎を安全に設定していることによって、通常、必然的に生ずるもので、一般企業の利益金（利潤）とは性格が異なっている。

正

誤

### 39【変額保険の運用リスク】

次の文章について、正しい場合には「正」、誤っている場合には「誤」を選んでください。

変額保険の資産運用に関するリスクは、すべて生命保険会社に帰属する。

正

誤

### 40【団体定期保険の配当】

次の文章について、正しい場合には「正」、誤っている場合には「誤」を選んでください。

団体定期保険の配当は、被保険者ごとの配当を算出してそれを積み上げるのではなく、団体単位で計算されており、死差損団体には、配当金は支払われない。

正

誤

<ここからは適切な組み合わせを選ぶ問題です。>

### 41【資産の平均利回り】

次の文章について、下線部AまたはBのいずれかが誤っている場合と、A・Bともに正しい場合とがあります。AまたはBのいずれかが誤っている場合は、誤っている記号と代わって入るものが最も適切な組み合わせを選択してください。A・Bともに正しい場合は、記号Cを選択してください。

ハーディによる平均利回りは、以下のとおりである。

ハーディによる平均利回り＝（年間の (A)資産運用益 × (B)1/12）  
／（年始資産＋年末資産－年間の (A)資産運用益）

ア. A－資産売却益

イ. A－資産評価益

ウ. B－1/2

エ. B－2

オ. C（A・Bともに正しい）

#### 42 [保険計理の基礎]

次の文章について、下線部AまたはBのいずれかが誤っている場合と、  
A・Bともに正しい場合とがあります。AまたはBのいずれかが誤っている場合は、誤っている記号と代わって入るものが最も適切な組み合わせを選択してください。  
A・Bともに正しい場合は、記号Cを選択してください。

同一性・同一年齢の多数の加入者が同じ種類の死亡保険に加入すると、  
(A) 大数の法則によって、全保険期間にわたって加入者の死亡状況が推定できる。その死亡者数と運用によって得られる利息を考慮したうえで、収入保険料総額と支出する保険金（および諸経費）総額とが等しくなるように保険料を定め収支のバランスを図る原則を (B) 平衡性の原則という。

ア. A－集合

イ. A－セットバック

ウ. B－収支相等

エ. B－信義誠実

オ. C（A・Bともに正しい）

#### 43 [チルメル式保険料積立金]

次の文章について、下線部AまたはBのいずれかが誤っている場合と、  
A・Bともに正しい場合とがあります。AまたはBのいずれかが誤っている場合は、誤っている記号と代わって入るものが最も適切な組み合わせを選択してください。  
A・Bともに正しい場合は、記号Cを選択してください。

チルメル式保険料積立金は、新契約費を考慮して初年度の純保険料（(A) 危険保険料）を純保険料式より少なくしてあるので、純保険料式に比べて初年度の積立金はその分に応じて低くなる。各 (B) 保険年度末の具体的な計算式（過去法）は、次のとおりになる。

1人当たりの保険料積立金＝（過去の収入純保険料の終価 － 過去の支払保険金の終価）／ (B) 保険年度末の生存者数

ア. A－死亡保険料

イ. A－貯蓄保険料

ウ. B－保険年度始

エ. B－保険年度月平均

オ. C（A・Bともに正しい）

#### 44【責任準備金】

次の文章について、下線部AまたはBのいずれかが誤っている場合と、A・Bともに正しい場合とがあります。AまたはBのいずれかが誤っている場合は、誤っている記号と代わって入るものが最も適切な組み合わせを選択してください。A・Bともに正しい場合は、記号Cを選択してください。

(A) 危険準備金は、「保険リスク」、「第三分野保険の保険リスク」、「(B) 情報漏洩リスク」および「最低保証リスク」に備えるものとされており、決算時に生命保険会社が積み立てるべき責任準備金の一構成要素である。

ア. A－払戻積立金

イ. A－未経過保険料

ウ. B－解約返戻金

エ. B－予定利率

オ. C（A・Bともに正しい）

#### 45【解約返戻金】

次の文章について、下線部AまたはBのいずれかが誤っている場合と、A・Bともに正しい場合とがあります。AまたはBのいずれかが誤っている場合は、誤っている記号と代わって入るものが最も適切な組み合わせを選択してください。A・Bともに正しい場合は、記号Cを選択してください。

解約返戻金は、解約の場合だけでなく、契約者に契約継続の意思が全くなくて (A) 失効した契約についても、契約者の請求に応じて支払われるほか、告知義務違反による保険契約の解除、保険金額の減額などが行われた場合の支払金、(B) 保険料払込猶予期間などの限度基準としても用いられている。

ア. A－契約者変更

イ. A－受取人変更

ウ. B－契約者配当

エ. B－契約者貸付

オ. C（A・Bともに正しい）



#### 46 [加入年齢方式による転換]

次の文章について、下線部AまたはBのいずれかが誤っている場合と、  
A・Bともに正しい場合とがあります。AまたはBのいずれかが誤っている場合は、誤っている記号と代わって入るものが最も適切な組み合わせを選択してください。  
A・Bともに正しい場合は、記号Cを選択してください。

契約転換制度の転換方式のうち、加入年齢方式（(A) 責任準備金差額払込み型）の転換後契約の価格は、転換前契約の加入年齢による。転換によって生じた (A) 責任準備金差額は (B) 一時払か分割払（割賦払）とする方式である。

ア. A－価格変動準備金

イ. A－危険準備金

ウ. B－一時払のみ

エ. B－分割払（割賦払）のみ

オ. C（A・Bともに正しい）

#### 47 [アセット・シェア方式]

次の文章について、下線部AまたはBのいずれかが誤っている場合と、A・Bともに正しい場合とがあります。AまたはBのいずれかが誤っている場合は、誤っている記号と代わって入るものが最も適切な組み合わせを選択してください。  
A・Bともに正しい場合は、記号Cを選択してください。

配当金の割当方式のうちアセット・シェア方式は、(A) 保険金額別に保険期間、年齢など契約条件を同一とする代表的契約について、実際の死亡率、利率、事業費率、継続率等に基づく各保険年度別のモデル収支計算を過去法的に行い、その収支残と (B) 年度末責任準備金とを比較して、その差額を基準に配当額を決定する方法で、利源別配当方式による配当金のチェックにも用いられる。

ア. A－保険種類

イ. A－保険料

ウ. B－当期末処分剰余金

エ. B－繰越利益剰余金

オ. C（A・Bともに正しい）

#### 48 [配当金の計算方法]

次の文章について、下線部AまたはBのいずれかが誤っている場合と、  
A・Bともに正しい場合とがあります。AまたはBのいずれかが誤っている場合は、誤っている記号と代わって入るものが最も適切な組み合わせを選択してください。  
A・Bともに正しい場合は、記号Cを選択してください。

現在採用している通常の有配当契約（主契約部分）における契約者配当金（通常配当金）の計算内容は、およそ次のとおりである。

- ・死差益配当＝死差益配当率×（保険金－(A) 保険年度末保険料積立金）
- ・利差益配当＝利差益配当率× (A) 保険年度末保険料積立金
- ・費差益配当＝費差益配当率× (B) 保険金

**ア.** A－既払込保険料累計額

**イ.** A－事業年度末保険料積立金

**ウ.** B－契約者配当準備金

**エ.** B－消滅時保険料積立金

**オ.** C（A・Bともに正しい）

#### 49 [変額保険の変動保険金額]

次の文章について、下線部AまたはBのいずれかが誤っている場合と、  
A・Bともに正しい場合とがあります。AまたはBのいずれかが誤っている場合は、誤っている記号と代わって入るものが最も適切な組み合わせを選択してください。  
A・Bともに正しい場合は、記号Cを選択してください。

変額保険の変動保険金額は、毎月1日（月単位の契約応当日）に契約ごとに次の計算式により算出される。

変動保険金額

$$= (\text{前月末の積立金} - \text{(A) 予定責任準備金}) / \text{(B) 一時払保険料率}$$

ただし、変動保険金額がマイナスになっても、死亡・高度障害保険金については基本保険金額が保証される。

**ア.** A－最低責任準備金

**イ.** A－標準責任準備金

**ウ.** B－前納保険料率

**エ.** B－月払保険料率

**オ.** C（A・Bともに正しい）

## 50 [団体年金の保険料計算]

次の文章について、下線部AまたはBのいずれかが誤っている場合と、  
A・Bともに正しい場合とがあります。AまたはBのいずれかが誤っている場合は、誤っている記号と代わって入るものが最も適切な組み合わせを選択してください。  
A・Bともに正しい場合は、記号Cを選択してください。

団体年金の保険料の計算には、一般に、多重脱退残存表が使われる。また、年金制度の財政を維持するための保険料について、主として (A) 将来勤務に関連して生ずる費用は (B) 特別保険料として積み立てるのが一般的である。

**ア.** A－通算勤務

**イ.** A－臨時勤務

**ウ.** B－通常保険料

**エ.** B－未経過保険料

**オ.** C（A・Bともに正しい）

